

第2章 地区の将来像と目標

1. 地区の将来像

地区の将来像は、これからの街づくりにおいて地域の方々と共有し、目指していく地区の将来の姿となります。

現在及び将来にわたって地域の方々が健全に豊かに暮らし続けると同時に、様々な活動が活発に営まれるよう、概ね10年後の本地区の将来像を定めます。

**多様な歴史と新しい文化が交流し、
共鳴しながら創造するまち
誰もが住み続けられる安全で安心なまち 祐天寺**

ここでいう祐天寺は、祐天寺駅周辺地区のことを指す。

このような将来像を設定した背景について、以下に整理します。

【多様な歴史と新しい文化】

本地区は、江戸時代中期に創建された「祐天寺」があり、明治時代の中頃まで、江戸・東京に農産物を供給する農村集落でした。昭和時代に入り東急東横線開通以降、祐天寺駅周辺は落ち着きのある住宅地として広がり、地域住民が利用する商店が立ち並ぶようになりました。

近年はカフェ・雑貨・古着屋などの鋭敏な感性が感じられる新しいタイプの飲食店や物販店の出店がみられるとともに、20代前半の女性の居住が増加していると考えられ、祐天寺駅舎の改修や駅ビルの建設など、これまで地域で培われてきた歴史や文化が大きく変化・変容しようとしています。

このような多様な歴史と新しい文化（人・営み・建物等）が混ざり合う状況を、本地区の発展の機会としてとらえ、新たな歴史・文化を生み出すまちを目指します。

【文化が交流し、共鳴しながら創造する】

多様な歴史と新しい文化（人・営み・建物等）が混ざり合う状況を本地区の発展の機会ととらえ、古い歴史と新しい要素が共鳴し合い、地域全体としての調和を図りながら、地域の顔となる駅前広場のあり方を含めて、新しいまち 祐天寺の創造を目指します。

【誰もが住み続けられる】

本地区は、目黒区の中でもやや高齢化が進行しており小学生以下の増加もみられることから、世代バランスのとれた人口構成の形成に向け、高齢者もファミリー世帯も住み続けられる街づくりが重要です。

また、中目黒駅に隣接する地域であり、交通利便性が極めて高い住宅地として注目されており、古くから住む人も新たに住む人にとっても暮らしやすいまちを目指します。

【安全 安心】

本地区には、木造住宅が密集しているところもあり、災害時活動困難度や、延焼の危険性が高い地域です。

また、夜間営業の店舗の増加、居住者の変化や来訪者の増加が見られることから、地域では、風紀やマナーについて声があがっています。

加えて、新しい居住者、新しい店舗の経営者等と地域のコミュニティを支えている町会・自治会、住区住民会議や商店会等との関係を深めていくことも必要です。

このような、防災・防犯・コミュニティに関する課題を解消し、安全・安心な街づくりの取組の実現を目指します。

2. 街づくりの目標

街づくりの目標は、地区の将来像を実現するために目指すべき方向性を定めるものです。

地区の将来像である「多様な歴史と新しい文化が交流し、共鳴しながら創造するまち 誰もが住み続けられる安全で安心なまち 祐天寺」を実現するための取組むべき街づくりの目標を示します。

目標 1：個性あふれる店舗の集積による活力があり、同時に安全で暮らしやすい住環境が確保された街

新旧大小様々な個性のある商業施設の集積による賑わいと活力のある街づくりを進めます。

同時に、閑静で良好な住環境の保全や防災・防犯対策などに取組み、暮らしやすく住み続けられる街づくりを進めます。

目標 2：安全で快適に移動できる街

地域の顔である駅前広場を中心とした安全な道路ネットワークの形成や通過交通の流入抑制、駐輪・駐車のマナー向上など、歩行者、自転車、自動車等が安全で快適に移動できる街づくりを進めます。

目標 3：地域資源を活用した歩いて楽しめる街

公共施設、地域資源や商店等を回遊することで、周辺地域（中目黒駅周辺等）とも連携した、歩いて楽しめるまち歩き観光[※]の街づくりを進めます。

※まち歩き観光とは、まちの一定のエリアをゆっくり時間をかけて散策する地域密着型の観光のこと（目黒区観光ビジョンより）

目標 4：豊かな地域コミュニティに育まれる街

町会・自治会、住区住民会議や商店会等の地域住民主体の取組を通じて、誰もが安全に安心して暮らし続けることができる街づくりを進めます。